

自らの歩みの確かさを実感できる 学校評価の在り方

札幌市立藤野小学校

I はじめに

学校改善に資する学校評価の取組

1 学校評価のねらい

本校における学校評価のねらいは、大きく次の2点が挙げられる。

- ① 学校としての目指す姿や教育活動の成果と課題を明確にすることによって、組織的・継続的な改善を図る。
- ② 学校教育目標「じょうぶな体 豊かな心」、本年度の重点目標「自ら学び、自ら考え、学ぶ意欲に溢れる子どもの育成」の達成度を確かめ、特色ある学校づくりに生かす。

また、学校評価を外からのチェックにとらえるのではなく、自らの教育力を高め、学校活性化を図る手だてとして考えた。そこで、学校評価を通して学校改善に前向きに取り組む組織作りを目指した。

2 昨年度の学校評価の結果をもとにした改善点

改善点
・評価観点
・評価の一体化

昨年度の自己評価では、児童アンケートでは学習について、保護者アンケートでは学校生活全般について、教職員では校務分掌についてと異なる評価観点から資料を収集し評価を実施した。そのため、課題の焦点化と方策の評価が十分にできず、学校評価を十分に活用していないことが明らかになった。そこで、本年度は、成果と課題を具体的に明らかにしながら学校評価を実施することが、組織の活性化と学校改善には必要だと考え、以下の二点について改善を行った。

(1) 評価観点の改善

評価観点は、本校の学校目標から作成するとともに、その具体化を図るために年度当初に手だてとして確認したものを評価項目とした。

評価分野	評価項目一覧
磨かれた知性を育てる	①確かな学力作り ②分かりやすい授業 ③個に応じた指導 ④外国語活動
豊かな心情を育てる	⑤ふれあい班活動 ⑥豊かな人間性 ⑦きまりを守る ⑧児童理解 ⑨朝読書
強じんな心身を育てる	⑩北方自然教育園活動 ⑪現地学習等体験学習
学校課題を支える手立て	⑫情報の発信 ⑬安心・安全 ⑭地域との連携

(2) 教職員、児童、保護者アンケートの一体化

- ・学校教育目標の3つの柱「磨かれた知性を育てる」「豊かな心情を育てる」「強じんな心身を育てる」から今年度の重点である14項目を設定し、教職員、児童、保護者アンケートの一体化を図る。
- ・学級経営案の形式にPDCAサイクルを取り入れ、前期の反省を後期に生かすことができるようにする。

II 本校の評価システム

自己評価システム
↓
自立する経営の実現のために

1 自己評価の充実を図る組織体制

本校では学校評価を教育課程検討委員会で行っている。教育課程検討委員会は、教頭、教務主任、指導部長、各部の部長で構成されている。また、自己評価は、アンケートと教職員の年度末反省で行っている。アンケートでは、教職員アンケート・児童アンケート・保護者アンケートの一体化を図ることによって、教職員と児童、保護者とのずれを読み取ることをねらった。

2 学校関係者評価の円滑な実施に向けた取組

学校関係者評価が円滑に行われるためには、本校の教育活動についてのねらいと取組をご理解いただき、外からの目で検証していただくことが重要である。そこで、6月に第1回学校関係者評価委員会を開催し、今年度の教育活動について説明を行った。また、その取組によって子どもたちのどのような育ちがあるのかを見ていただくために、各行事等に参加をお願いし、学校に足を運んでいただくこととした。

III 学校評価の1年間の流れ

	自 己 評 価			学校関係者評価
	学校(教職員)	児童生徒	保護者	学校関係者評価委員会
4	・学校経営重点目標の確定 ・学年学級経営案の作成 ・自己目標シートの作成(教職員評価)	・全国学力・学習状況調査	・学校教育説明会 ・PTA総会	・学校教育説明会 ・PTA総会
5	・学年学級経営交流会 ・研究全体会	・学力テスト(2年生以上)		・運動会観覧
6	・児童理解研修会			・第1回学校関係者評価委員会
7		・運動能力テスト		
8				
9	・学年学級経営案前期の振り返り	・前期通知表配付		
10	・学年学級経営交流会 ・評価項目の策定			・学習発表会観覧
11	・アンケートの作成(教職員・児童・保護者)	・札幌市いじめに関する調査	・保護者アンケート	・日曜参観、PTA友愛セール
12	・教職員アンケート ・年度末反省～個人反省	・児童アンケート		
1	・年度末反省～各部、教育課程検討委員会 ・学年学級経営一年間の振り返り			
2	・学校評価全体会 ・研究全体会 ・学年学級経営交流会 ・児童理解研修会 ・自己目標シート(教職員評価) ・自己評価書の作成		・学校教育説明会 自己評価書の公表	・第2回学校関係者評価委員会 自己評価書への指導 ↓ 学校関係者評価書
3	・学校関係者評価書の作成 ・次年度教育計画作成	・後期通知表配付	学校関係者評価書の公表 学校だより、HPなど	・卒業式参観

IV 学校評価の方法

1 自己評価

(1) 項目の設定

① 教職員、児童、保護者アンケート

学校経営を船にたとえるならば、学校の経営の重点は「学校の経営目標」、そして学校評価は、「羅針盤」と考えている。したがって、常に学校目標を基に、具体的な目標を設定し、その達成状況を評価項目として設定した。また、教職員、児童、保護者アンケートの項目を一致させることによって、三者のずれが明確になり、次年度の改善のポイントを明確にすることができた。

平成21年度 教職員、児童、保護者アンケート

学校課題	細目	教職員アンケート	児童アンケート	保護者アンケート
磨かれた知性を育てる	確かな学力作り	確かな学力（思考力、判断力、表現力等）を身に付ける授業作りを行うことができた。	家庭学習や宿題を忘れずにやっている	お子さんは基礎的な学力が身に付いている
			授業中先生や友達の話をしっかり聞いている、 授業中自分の考えを進んで発表している。	お子さんは、進んで宿題や家庭学習をしている。
	分かりやすい授業	分かりやすい授業作りをめざして、学年研修や校内研究を通して教材研究を行うことができた。	授業は分かりやすい。	お子さんは、授業をきちんと分かっている。
	個に応じた指導	個に応じた指導をすることができた。（3年生以上～T・Tの活用を含めて）	授業で分からないことはきちんと聞くことができる。	授業では、T・Tの活用など個に応じた指導が行われている。
	外国語活動	コミュニケーション能力を高める外国語活動を行うことができた。	外国語活動は楽しい。	お子さんは外国語活動を楽しんでいる。

② 教職員の年度末反省

アンケートだけでは検証しきれない内容については、教職員の年度末反省で検証する。個人反省→各部の反省→教育課程検討委員会→全体会の流れで行っている。

	評価項目	評価
教育目標・重点目標	教育目標、重点目標の実現に向け、全職員の共通理解と経営参画のもと、教育活動を展開している。	A B C D
開かれた学校	学校経営の重点と方針を保護者、地域に明らかにし、相互の協力のもと、教育活動を推進している。	A B C D
校務分掌組織	各校務分掌や各学年の連携が円滑に行われ、それぞれの組織が有機的に機能している。	A B C D

(2) 結果の集計と分析・自己評価書の作成

結果の集計は、児童アンケート・保護者アンケートを各担任が行った。集計の時間はかかるが、結果をすぐに学級指導に生かしたり、個人懇談に生かしたりすることができた。また、教職員アンケート、年度末反省の集計と結果の分析は教育課程検討委員会で行った。

自己評価書の作成は、2月の学校評価全体会、研究全体会、学年学級経営交流会終了後、教育課程検討委員会で作成する。作成された自己評価書は、2月の職員会議で検討され、第2回学校関係者評価委員会にて評価委員の評価を受けることとなる。自己評価書には、アンケートの結果を点数化しA B C Dで評価したものと、それぞれの項目に具体的な改善の方向が出されている。

2 学校関係者評価

(1) 学校関係者評価委員の構成と役割

コミュニケーション
ツールとしての学校
関係者評価

本校の自己評価が適切に行われているか、学校運営の改善に向けての取組が適切かどうかを検証するために学校関係者評価委員会が設置されている。構成メンバーは、学校評議員3名（地域住民、学識経験者）と現PTA会長の4名である。

(2) 学校関係者評価を生かす取組

自己評価書の作成が適切であったか、また、改善の方向が適切であるかを検証していただく。平成20年度は、全ての項目においてAの評価を受けたが、評価の結果によっては、再度、改善の方向性を検討したり、自己評価書についてご説明申し上げたりすることも必要となってくる。学校側からの一方的な発信ではなく、きめ細かい双方向からの交流が学校関係者評価を生かす取組につながると考える。

V 評価結果の公表

1 公表の方法

本校では、評価結果の公表を以下の方法で行っている。

公表結果の多様化
↓
学校改善へ努力する
姿を伝える

① 学校だより

児童アンケート、保護者アンケートの結果について、2月の学校だよりに掲載することによって、保護者はもちろん、地域の方々にも公表している。また、学校だよりとは別に、自己評価書、学校関係者評価書についても保護者に配付している。

② 学校教育説明会

自己評価書について、2月の学校教育説明会で説明を行っている。

③ 学校ホームページ

自己評価書、学校関係者評価書ともに、学校ホームページに掲載している。

2 公表の効果

地域、保護者に結果の公表を行うことによって、本校の教育活動や具体的な取組、成果と課題や改善に向けての取組などを理解していただくことができる。また、我々教職員一人一人にとっても、教育活動に対する責任がより意識されることになる。更に、開かれた学校づくりを進めていく上で、地域や保護者の理解や協力は欠かせない。学校が何に向かってどんな教育活動を進めているのか、積極的に発信していくことによって、地域と一体となった教育活動を推進していくことができる。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成課

校内の評価だけではなく、保護者や地域、学校関係者評価委員会からの評価を受けることによって、客観的な立場からの意見を取り入れて学校運営を進めていくことができるようになった。また、教職員、児童、保護者アンケートの一体化を図ったことによって、より具体的な改善策に着目することができるようになり、アンケート結果をすぐに教育活動に生かすことができるようになった。

2 今後の課題

今後は中間評価を取り入れることによって、PDCAのサイクルを細かくする必要があるのである。そのためには、早い時期に評価項目を設定するとともに、集計・分析の効率を上げることが求められる。また、年度末に学校関係者評価委員の方々に、より適切な検証・助言をしていただくために、年間を通しての子どもの育ちを見ていただくための手だてを考えていく必要がある。

学校評価〈資料1〉 【自己評価及び学校関係者評価書】

平成21年度 自己評価及び学校関係者評価書

札幌市立藤野小学校

自己評価書に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方向	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
知性	① 確かな学力(基礎基本、思考力、判断力、表現力等)を身に付ける授業作りを行うことができた。				
	② 分かりやすい授業作りを目指して、学年研修や校内研究を行うことができた。				
	③ 個に応じた指導を行うことができた。				
	④ 外国語活動を通してコミュニケーション能力を高めることができた。				
学校関係者評価者による意見					

豊かな心	⑤ ふれあい班活動を通して思いやりや助け合いの心、自覚と責任、協力する心を育てることができた。				
	⑥ 相手の気持ちを考え、協力して生活する態度を育てることができた。				
	⑦ 道徳の時間や教育活動全体を通して、挨拶や返事、決まりを守ることの大切さを考えさせることができた。				
	⑧ 子ども一人一人を理解し、支える教育活動を全職員で進めることができた。				
	⑨ 豊かな心と確かな学力にむけて効果的な朝読書の取組をすることができた。				
学校関係者評価者による意見					

強い心身	⑩ 藤野のよさを生かした北方自然教育園活動を進めることができた。				
	⑪ 現地学習、修学旅行、宿泊学習などによって各教科で培われた基本的な知識・技能の習得を図ることができた。				
学校関係者評価者による意見					

支える手だて	⑫ 各種お便り、参観、懇談等を通して、適切な情報発信を行うことができた。				
	⑬ 安心・安全な登下校、不審者対策、避難訓練など児童の安全を確保することができた。				
	⑭ PTA活動、スクールゾーン実行委員会、開放図書館など家庭や地域と連携することができた。				
学校関係者評価者による意見					

学校評価〈資料2〉 教職員、児童、保護者アンケートの概要及び達成状況

A 3.5以上 B 3.5~2.5 C 2.5~1.5 D 1.5以下

評価分野	評価項目	教職員アンケート	達成状況	児童アンケート	達成状況	保護者アンケート	達成状況
磨かれた知性を育てる	確かな学力づくり	確かな学力【基礎基本・思考力・判断力、表現力】を身に付ける授作りを行うことができた。	B	家庭学習や宿題をわすれずにやる。	B	基礎的な学力が身に付いている。	B
				先生や友達の話をしっかり聞く。	B		
				授業中自分の考えを発表する。	B		
	分かりやすい授業	分かりやすい授業作りを目指して、学年研修や校内研究を通して教材研究を行うことができた。	B	授業は分かりやすい。	B	授業をきちんと理解している。	B
個に応じた授業	個に応じた指導を行うことができた。	B	分からないことはきちんと聞く。	B			
外国語活動	外国語活動を通じてコミュニケーション能力を高めることができた。	B	外国語活動は楽しい。	B	外国語活動を楽しんでいる。	B	
豊かな心情を育てる	ふれあい班活動	ふれあい班活動を通して思いやりや助け合いの心、自覚と責任、協力する心を育てることができた。	B	ふれあい班活動は楽しい。	B	ふれあい班活動を通して、子ども同士のふれあいの輪や思いやり責任感が育っている。	B
	豊かな人間性	相手の気持ちを考え、協力して生活する態度を育てることができた。	B	相手の気持ちを考えたり、協力したりして生活している。	A	友達を大切にしている。	B
	きまりを守る	道徳の時間や教育活動全体を通して、挨拶や返事、決まりの大切さを考えさせることができた。	B	挨拶や返事をきちんとしている	A	正しい挨拶や言葉遣いができる。	B
				決まりやルールをきちんと守る	B	ルールや決まりを守っている。	B
	児童理解	児童一人一人を理解し、支える教育活動を全職員で進めることができた。	B	先生は自分こと分かっていていて感じる。	B	学校は一人一人を理解している。	B
朝読書	豊かな心と確かな学力に向けて効果的な読書活動の取組をすることができた。	B	読書の時間は楽しい。	A	読書を楽しんでいる。また、読書する時間が増えた	B	
強靱な心身を育てる	北方自然教育園	藤野のよさを生かした活動をすすめることができた。	B	北方自然教育園活動は楽しい。	A	活動を通して藤野のよさを感じている。	B
	現地学習	学習を通して、各教科で培われた基本的な知識・技能の習得を図ることができた。	B	学習を通して普段教室で学べないことを学ぶことができた。	A	学習を通して、普段学べないことを学んでいる。	A
学校課題を支える手立て	情報発信	適切な情報発信を行うことができた。	B			教育活動を分かりやすく伝えている。	B
	安全	児童の安全を確保することができた。	B			安全や健康に配慮している	A
	地域との連携	家庭や地域と連携することができた。	B			家庭や地域と連携している	A